

令和6年1月24日

中野区消防団運営委員会（第1回）次第

1 委員の委嘱

2 議事

- (1) 前回の答申概要の報告
- (2) 今回の諮問に対する検討事項について
- (3) 委員会日程について
- (4) その他

【配布資料】

- 中野区消防団運営委員会委員名簿
- 資料1 特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針と消防団の取り組み
- 資料2 特別区消防団運営委員会の諮問について
- 資料3 消防団員に対するアンケート（案）
- 資料4 委員会日程（案）

令和5年度中野区消防団運営委員会委員名簿

	氏 名	備 考
委員長	酒井 直人	中野区長
委 員	高倉 良生	学識経験者
委 員	西沢 けいた	
委 員	荒木 ちはる	
委 員	河原井 守	
委 員	大野 道高	
委 員	ひやま 隆	区議会議員
委 員	山内 あきひろ	
委 員	小林 ぜんいち	
委 員	黒沢 ゆか	
委 員	吉田 康一郎	
委 員	石坂 わたる	
委 員	杉本 聡子	中野消防署長
委 員	渡邊 茂男	野方消防署長
委 員	野中 幸雄	中野消防団長
委 員	日高 泰夫	野方消防団長

中野区消防団運営委員会の答申及び東京都の対応方針について

1 諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか
(審議期間:令和3年10月から令和5年3月まで)

2 諮問の趣旨

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時には消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割を担うなど、地域住民から頼られる存在である。

今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時には、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及び消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、当庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。このことから、消防団の実践的な対応力の更なる向上が、震災時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について諮問するものである。

3 諮問課題に対する答申内容及び東京都の対応方針

課 題	答申内容	東京都の対応方針
(1) 実戦的活動力の向上	大規模地震発生時に備え、各分団が任務別で災害対応能力を向上させる必要がある。このため、実際の街区を活用した筒先配備要領、神田川や妙正寺川からの吸水要領など実戦的な火災対応訓練を実施するとともに、隣接消防団、自治体、自衛隊、警察、他の防災機関と連携した活動訓練や指揮訓練を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 新たな訓練モデルの提示・検証による実戦的活動力の向上 2 積載車による出場から放水まで等の一連の火災対応訓練の推進 3 消防団訓練指導マニュアル等の整備による主体的な活動の定着化
(2) 研修等の充実	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団員に対する指揮要領及び活動要領などの教育、指導的立場である消防職員に対する再教育など、統一的な教育が必要であり、消防学校の研修に位置付けるなど、計画的かつ継続的な教育を推進する。 2 中野区地域防災計画など区の防災対策や中野区の被害想定を踏まえE V閉じ込め者対応など、地域特性に応じた教育をはじめ、火災現場における安全管理や燃焼メカニズム、震災経験者による講話を各分団で機会ある都度、必要な教育を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 可搬ポンプ実技講習の試行・検証 2 消防学校研修や各種講習のアンケートや時勢を踏まえた随時見直し 3 消防団の消防学校研修への職員の聴講の検討
(3) 訓練環境の充実	消防団の訓練は、消防署庁舎で実施しているほか、区有施設である区立公園や区立学校を一部借用するなど、限られた場所、条件での訓練が余儀なくされ実戦的な訓練が困難な状況であることから、再開に伴う解体建物の活用、駅舎などの公共施設や民間事業所の協力による施設活用など、積極的に訓練場所を確保する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防署訓練施設や方面訓練場を有効に活用した訓練の推進 2 区など関係機関と連携した訓練場所の確保推進
(4) 現行のデジタル環境の活用	令和3年10月に各分団に整備されたタブレット端末や個人が保有する携帯端末などを活用したe-ラーニングシステムによるデジタルコンテンツでの活動別、任務班別、階級別などのオンライン教養を行うとともに、災害事例や訓練状況などの録画映像を活用した振り返り訓練を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 東京消防団e-ラーニングシステムの更新による利便性の向上 2 タブレット端末を有効に活用した教養や訓練の推進
(5) 新たなデジタル環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在、活用しているe-ラーニングシステムのデジタルコンテンツに加え、火災活動（発災から鎮圧まで）、各種災害に応じた指揮活動のロールプレイング用アプリケーションの導入、任務及び階級に応じた災害対応疑似体験用アプリケーションを導入し教育効果を高める。 2 新型コロナウイルスの影響、訓練場所確保の困難性を踏まえ、場所を選ばず、身近で教育や訓練が可能になる拡張現実（AR）や仮想現実（VR）技術の活用について、今後の技術革新を踏まえ検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種資機材取扱い動画等にアクセスできる二次元コード読取り方式の導入検討 2 ARやVRなどの技術を活用した訓練導入に向けた調査研究（ARやVRなどの調査研究委託）

<p>(6) 若い世代の団員確保</p>	<p>区内の専門学校、大学、各種企業等と連携した体験入団、若手消防団員からメッセージ動画や消防団活動についてSNS等による積極的な情報発信を展開し、学生や若い世代をターゲットに消防団の認知を高める取組みを推進する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 HP、SNS等を活用した消防団活動に興味を抱く情報発信の推進 2 あらゆる機会に消防団活動の見学や資機材等の展示の推進 3 現役消防団員との座談会の実施方法の検討
<p>(7) 募集広報の充実・強化</p>	<p>中野消防団では、令和2年度、消防団の充足率が70%を下回ったことから、入団促進委員会を開催し効果的な広報について検討、消防団員のメリットを大きく紹介するポスターを作成・掲示したことで入団者が急増しており、引き続き時代背景や地域特性を踏まえた魅力を感じるポスターの作成や多くの人々が利用し、目につきやすい場所への掲示を検討し広報活動を推進する。 また、広報効果を一層高めるため若い世代に広く周知が期待できるインターネット広報を充実する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 インターネット広告による募集広報の拡充 2 「東京消防団エントリーシート」を活用した入団促進 3 団員インタビュー動画等を活用した地域紹介や消防団の魅力が伝わる広報の推進
<p>(8) 各種制度の活用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団協力事業所表示制度や学生消防団活動認証制度について、事業所や学校等に対する周知活動を展開するとともに、社会貢献における事業所のPRのほか、更なる付加価値的な要素の充実を検討する。 2 現在、大規模災害団員の数は、中野消防団が11名、野方消防団が2名である。 大規模災害団員の任用定数は、各消防団の分団数に3を乗じた数で中野消防団、野方消防団ともに24名までの採用が可能であることから、各消防団の実情を踏まえ、退職団員及び退職予定団員に対して積極的に入団を促進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団協力事業所による社会貢献や消防団PRの強化 2 学生認証制度の周知による募集広報の強化 3 大規模災害団員制度等の更なる周知と活用による退団への対策の強化
<p>(9) 新たな資器材及び軽量化など負担軽減</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 使用できる水利が限定されホースの長距離延長が必要となることから、ホース延長時の活動負担を軽減するため、電動アシスト付きホース延長台車を整備する。 また、可搬ポンプと可搬ポンプの中継時の圧力調整を自動で行うことができる自動圧力調整機能付可搬ポンプの早期更新、更に、更新までの期間に対応するため中継器や簡易水槽などを整備する。 2 火災の延焼拡大により長時間放水や大量放水による活動負担を軽減するため、地面などに放水器具が固定できる台座付き放水銃を整備する。 3 中野消防団、野方消防団には、女性団員が約50名、60歳以上の団員が約40名所属している。こうした状況の中、軽量ノズル付60mm管そうなど、大きく取りまわし難い資器材が複数配備されていることから、コンパクトで信頼性が高く、扱いやすいガンタイプノズルや強力ライトなどの資器材の整備を検討する。 4 区内を流れる神田川、妙正寺川の自然水利を効果的に活用するため、河川からの吸水が容易にできるフローティングストレーナーを追加整備する。 5 照明資器材として各分団に投光器が1基整備されているが、可搬ポンプ周囲や2口放水時の現場照明を考慮し、軽量で持ち運びが容易な照明器具を追加整備する。 6 震災時、消防団員は速やかに参集し、監視警戒をはじめ、消火及び救助活動など、長時間活動が想定されることから各団本部に仮眠用の寝袋を追加整備する。 7 震災時は、消火栓の使用不能が想定され河川による無限水利の活用が求められることから、吸水作業時に使用する胴付き長靴を追加整備する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 震災時等、迅速にホース延長できるホースバックの整備 2 資器材の電動化や新しい技術を取り入れた資器材の導入検討 3 消火能力や安全管理向上のための資器材の導入検討 4 更新に合わせた既存資器材の軽量化やコンパクト化など市場の開発動向の注視と検討

1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか（審議期間：令和5年8月から令和7年3月まで）

2 諮問の趣旨

特別区消防団は地域になくなくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。
 さらに、昨年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。
 一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。
 このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

3 課題と検討事項

課題と検討事項
入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。
最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。
消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。
地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

地域特性・団員意見（アンケート結果）を踏まえ検討

4 答申の方向性の検討

検討の方向性
(1) 団活動によりやりがいを持てる方策 ・やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討 ・検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討 (2) 資格取得講座の拡充等の検討 ・既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討 ・多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討 (3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討 ・各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や口座、ワークショップの発掘
(1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討 ・MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上 ・電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入など (2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討 ・現行タブレット端末の更新に合わせたアプリやシステムの導入など (3) 各種資器材の更新に合わせた仕様変更等の検討 ・環境に配慮した装備資器材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減
(1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討 ・具体的訓練目標や到達状況の確認の実施（デジタル訓練日誌の導入や目標成果シートの作成） ・団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討 (2) 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討 ・長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映（指導マニュアルの作成） ・訓練指導者の研修や体制など制度の検討など (3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討 (4) 訓練効果の確認方策についての検討
(1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討 ・消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について ・区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討 (2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討 ・地域行事や消防団活動などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策について ・消防団員が行う総合防災教育等を通じた、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策について

消防団員に対するアンケート

- ・階級 _____ ・経験年数 _____ 年 _____ カ月
・性別 男性 ・ 女性 ・年齢 _____ 歳

1 組織の活性化方策について

【設問 1】

消防団活動にやりがいを感じるか、該当する番号に○をして下さい。

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

【設問 2】

設問 1 で『1 はい』と答えた方のみ回答してください。

やりがいを感じる事案に○をして下さい。『6 その他』を選んだ方は、やりがいを感じる事案について記入して下さい。

- 1 災害活動 2 救命講習指導 3 防災訓練等の地域住民への指導
4 団操法大会などの各種訓練 5 行事等の警戒活動を通じた地域貢献
6 その他 ()

【設問 3】

設問 1 で『2 いいえ』と答えた方は、理由を記入して下さい。

()

【設問 4】

設問 1 で『2 いいえ』、『3 どちらともいえない』と答えた方のみ回答してください。

消防団活動でやりがいを感じられるようになるためには、どうすればよいと思うか、記入して下さい。

()

【設問 5】

消防団活動において、必要な資格又は取得したいと考える資格はあるか、該当する番号に○をして下さい

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

【設問 6】

設問 5 で『1 はい』と答えた方のみ回答して下さい。必要または取得したいと考える資格について理由も含めて、記入して下さい。

()

【設問 7】

消防団員の現職業内容から、消防団活動に活かせると思う資格及び技術、知識はありますか。あると思われる方は、記入をして下さい。ない場合は、なしと記入して下さい。

()

2 活動環境の改善方策について

【設問 1】

災害出場において、現行の受信体制についてどのように感じるか、該当する番号に○をして下さい。『4 その他』を選んだ方は、あなたが考える受信体制について記入して下さい。

- 1 現行どおりでよい 2 受信体制を変更したい 3 災害状況により出場したい 4 その他 ()

【設問 2】

災害受信方法について、効率よい受信方法はどのように考えるか、該当する番号に○をして下さい。『5 その他』を選んだ方は、あなたが考える効率良い受信方法について記入して下さい。

- 1 電話 2 緊急情報伝達システム 3 LINE
4 MCA無線の配置数の拡充 5 その他 ()

【設問 3】

MCA無線の配置数についてどう考えますか。(現在、団長、副団長、分団長

及び消火班長に配置されている。)『4 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。

- 1 現行のままでよい
- 2 すべての団員に配置する
- 3 各分団の配置数を2～3機増やす
- 4 その他 ()

【設問4】

タブレット端末についてお聞きします。今までタブレット端末を使用したことはありますか？

- 1 はい
- 2 いいえ

【設問5】

設問4で『1 はい』と回答した方にお聞きします。

1か月の使用頻度についてお答えください。

- 1 1回未満
- 2 1～2回程度
- 3 3～4回程度
- 4 5回以上

【設問6】

設問4で『2 いいえ』と回答した方にお聞きします。

どんな機能やアプリがあれば使用すると思いますか。該当する番号に○をして下さい。『5 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。(複数回答可)

- 1 被服要求
- 2 出場報告等の入力
- 3 各分団のスケジュール機能
- 4 公務災害等の入力
- 5 その他 ()

【設問7】

現在配置されている資器材で仕様変更等により、利便性が向上したり、負担が軽減すると思うものはありますか。ある場合は資器材名及び変更により期待できる効果等について記入してください。

()

【設問8】

装備資器材について、現在配置されている資器材以外に必要なと思われる資器材はあるか。ある場合は、資器材名及び活用方法等について記入して下さい。

()

3 人材育成方策について

【設問 1】

どのような訓練がしたいですか。該当する番号に○をして下さい。

『5 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。(複数回答可)

- 1 放水訓練 2 救助訓練 (資器材及びロープの取扱い等)
3 操法訓練 4 応急救護訓練
5 その他

【設問 2】

団員の活動技術や実績を基に、階級とは別の識別を行う必要があると思われるか。該当する番号に○をして下さい。

例) 上級救命講習終了者専用のバッジを付けるなど。

- 1 はい 2 いいえ

【設問 3】

設問 2 で『1 はい』と回答した方にお聞きします。

その理由と識別を行ったほうが良いと思うものを記入してください。

()

【設問 4】

消防団活動が経験豊富な団員が訓練指導者となり、経験が浅い団員への知識や技術を伝えるための講習や訓練指導を行う必要はあると思いますか。該当する番号に○をして下さい。

- 1 はい 2 いいえ

【設問 5】

設問 4 の訓練指導者となるための研修を行う必要はあると思われるか。該当する番号に○をして下さい。

- 1 はい 2 いいえ

【設問 6】

設問 5 で『1 はい』と答えた方のみ、回答して下さい。

訓練指導者となるため必要と思われる研修項目について該当する番号に○をして下さい。『7 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。(複数回答可)

- 1 消火技術研修 2 救助技術研修 3 応急救護指導研修
4 指揮技術研修 5 デジタル広報研修 6 機関運用研修
7 その他

()

【設問 7】

操法大会とは別に実働訓練を行う必要はあると思われるか。該当する番号に○をして下さい。

- 1 はい 2 いいえ

【設問 8】

設問 7 で『1 はい』と答えた方のみ、回答して下さい。

実働訓練を行うにあたり、訓練頻度について該当する番号に○をして下さい。

『5 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。

- 1 1年に1回 2 半年に1回 3 四半期ごとに1回
4 1か月に1回 5 その他

()

【設問 9】

実働訓練成果確認を行う必要はあると思われるか。該当する番号に○をして下さい。

- 1 はい 2 いいえ

【設問 10】

設問 9 で『1 はい』と答えた方のみ回答して下さい。

成果確認を行う規模について該当する項目の番号に○をして下さい。『4 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。

- 1 分団規模 2 各消防団規模 3 方面支部規模
4 その他

()

4 消防団を地域住民により認知してもらう方策について

【設問 1】

災害活動等で従事したことのある項目について該当する番号に○をして下さい。また、消火活動で放水したことがある方はおおむねの回数の記入もして下さい。『6 その他』を選んだ方は、内容を記入して下さい。

- 1 火災現場での消火活動（放水） _____ 回
- 2 火災現場でのホース整理
- 3 現場での情報収集
- 4 傷病者への応急手当処置
- 5 救助活動現場での活動
- 6 その他（ _____ ）

【設問 2】

今後、災害現場で活動してみたい内容について記入して下さい。

（ _____ ）

【設問 3】

消防団活動状況をより、地域住民に認知してもらう為の方策について、より良い方策について該当する番号に○をして下さい。『5 その他』を選んだ方は、意見を記入して下さい。（活動状況＝以後、ポスター等）

- 1 ポスター等を回覧板で回す
- 2 関係機関の掲示板に定期的にポスター等を掲示してもらう
- 3 区役所や区民事務所にモニターを置いてもらい、映像を流す
- 4 消防団ホームページに掲載し、定期的に更新する。
- 5 その他（ _____ ）

【設問 4】

地域行事や消防団行事を通じて、地域住民と密接した関係を築けていると感じているか該当する番号に○をして下さい。

- 1 十分に感じる 2 まあまあ感じる 3 どちらともいえない
- 4 あまり感じない 5 まったく感じない

【設問 5】

設問 4 の回答について、なぜそう感じるのか記入してください。

()

【設問 6】

今後、消防団活動を地域住民に理解して頂いたり、協力して頂くために必要だ
と思うことについて記入してください。

()

委員会日程（案）

開催回	審議内容
第1回 令和6年1月24日（水） 13時30分から15時30まで	1 前回の答申概要の報告及び今回の 諮問に対する検討事項について 2 委員会日程について 3 次回の審議予定
第2回 令和6年4月中または5月中	1 骨子に沿った審議 2 答申案の作成 3 次回の審議予定
第3回 令和6年7月中または8月中	1 答申案の審議 2 答申の決定